PICK UP！在宅医療機関　029

医療法人平和の森
ピースホームケアクリニック

平本秀二

理事長

077-548-7663
peace-clinic.jp
滋賀県大津市神領三丁目11番7号

ビジョン

ーすべてのひとに緩和ケアをとどけるー
私たちは　健康格差だけでなく　さまざまな社会格差を解消し　すべてのひとが 平和で持続可能な社会を築けるように 努力します

「病院ではなく、自宅で家族と過ごしたい」――そんな切実な願いを胸に、京都・大津・山科エリアで在宅緩和ケアを実践している平本秀二理事長。消化器内科専門医としてキャリアを積んだ後、がん末期患者と向き合う中で「治療だけでは救えない命」に出会い、在宅・緩和の道へ。緩和医療の現場から見えた地域の課題、自宅で安心して過ごすための体制構築、そして“見えにくい在宅医療”を地域の光に変える挑戦を紹介します(2025年11月取材)。

“人の死”が原点に。京都で緩和ケアを志した医師のルーツと学生時代の歩み

まずは、医師、そして緩和ケアの道を目指されたきっかけについて教えてください。

幼い頃から人の「死」が身近にあったことが大きいですね。中学1年生の時にクラスメイトが交通事故で亡くなったり、大学受験で一浪していた時には親友を事故で亡くしたりと、人の死について深く考えさせられる経験が多くありました。そうした経験から、死生観や死生学に強い興味を持つようになったんです。

また、私自身も病気がちで、小学4年生の時にはおたふく風邪から髄膜炎と膵炎を併発して入院しました。その時、病気で苦しむ人を助けたいという思いも芽生えていたのかもしれません。

ご自身の経験が原点になっているのですね。幼い頃からのかかりつけ医の先生に憧れていたと伺いました。

そうですね、物心ついた頃から医師になりたいと思っていました。入院した時にお世話になった開業医の先生が、すごく親身になってくれる方で。中耳炎になれば耳も診てくれるような、何でも診てくれる先生でした。私の家族には医療関係者がいなかったので、その先生が私にとって唯一の「医師のモデル」であり、安心感を与えてくれる憧れの存在でした。

まさに一筋ですね。医学部時代はどのように過ごされたのでしょうか？

お恥ずかしい話ですが、実は高校時代に少しドロップアウトしてしまったこともあり、大学時代もあまり授業には出ない学生でした（笑）。いかに最小限の出席数で単位を取るか、というのが当時の私にとっての大きなテーマでしたね。「朝起きたら夕方だった」なんてこともしょっちゅうで、その度に友人が心配して「今日は絶対に出席しろよ！」と連絡をくれる。そのおかげで、なんとかストレートで卒業できました。

意外な学生時代ですね。卒業後は多くの方が進む医局には入らなかったと伺いました。
はい。私は平成15年卒で、当時は卒業後に医局に入るのが一般的でした。でも、そこでも私はアウトローだったので、医局には入らず、自分で研修先を見つけて大津の病院に入職したんです。自分の道を自分で切り拓いていきたいという思いが強かったですね。

研修医時代はいかがでしたか？
周りに医師のモデルがいなかったこともあり、医者になった瞬間に「どう働いてけばいいのか」とすごく悩みました。色々な科をローテートする中で、どの科にも魅力を感じてしまい、なかなか専門分野を決められずにいましたね。一種のモラトリアム期間だったのかもしれません。

内視鏡治療の専門医から緩和医療へ転身した理由

最終的に、専門として消化器内科を選ばれたのはなぜですか？
大学2年生の時に腸炎で入院したのですが、その時に内視鏡をしてくれた先生の腕が素晴らしく、全く痛くなかったんです。「かっこいいな」と感銘を受け、消化器内科医を目指すことにしました。

その後、腫瘍内科へと専門を移されていますが、何かきっかけがあったのでしょうか？
2009年頃に義理の母ががんで亡くなったことが大きな転機になりました。当時、私は消化器内科医として抗がん剤治療にも携わっていましたが、義母は婦人科がんでした。「消化器内科だけをやっていても、助けられない人がいる」と痛感し、もっと幅広く「がんの患者さんなら何でも来い」と言えるような医者になりたいと思い、腫瘍内科への道を選びました。

そこからがん治療の専門家としてキャリアを積まれたのですね。先生のキャリアにおいて重要なターニングポイントとなった「緩和ケア」とは、どのように出会われたのでしょうか？
京都の病院で腫瘍内科医としてのキャリアをスタートさせる際の面接が、大きなきっかけとなりました。後に上司となる先生から「緩和ケアに興味はありますか？」と問われたのです。正直なところ、当時は緩和ケアに対して強い関心があったわけではありませんでした。しかし、何か感じるものがあり「はい」と答えたのです。後日、その先生から「あの時もし『いいえ』と答えていたら、君を採用することはなかっただろう」と聞き、不思議な縁を感じずにはいられませんでしたね。そして、実際に緩和ケアの現場に深く関わるようになると、その奥深さにすぐに魅了されていきました。

緩和ケアのどのような点に魅力を感じたのでしょうか？
がん治療は、ある程度やることが決まっていて、少しタスク化している部分があると感じていました。しかし、緩和ケアは体の痛みだけでなく、心の問題、社会的な問題、その人の人生そのものなど、非常に幅広い領域を扱います…

続きはQRコードからアクセスしてください　→ → →

おうちde医療
在宅医療com株式会社
〒107-0062　東京都港区南青山3-1-36青山丸竹ビル6F
service@zaita9iryou.com